

男の子との相互関係に悩むシングルマザーたち

離婚した母親が一番悩むのは男の子の育て方だと言われています。

両親が揃っている男の子に比べると、母親の離婚後1年間、母親に反抗し、母親の言いつけを無視する傾向があると報告されています。

男の子が小学生の時に親が離婚した場合、父親との性同一性が困難故に、母親への反抗や反社会的行動が増えると考えられています。性同一性、役割性とも言われ、男の子が自分のなすべき役割に混乱が生じ、依存性が強くなり、男の子として振る舞うことに興味をなくす傾向を意味しています。

子どものこのような行動に対して、育てる母親に責任がある、母親自身の性格等に問題があると、世間では考えられていますが、離婚後、経済的な負担と子どもを育てることに苦慮している母親に、その原因を背負わせるのは間違っています

離婚した親と過ごす子どもの問題を考えるとき、一方的に親の育て方の責任と考える、又は子どもの性格的な弱さに問題の根拠を求める傾向がありますが、子どもを反抗的にさせる原因は、両親の離婚前後に生じたトラブルに、子どもが巻き込まれて生じていると考える方が妥当です。

子どもが引き起こす問題の多くは、親との相互作用から生じた問題ですから、個人の性格や発達上の問題という狭い範囲で考えるのではなくて、シングルマザーの子どもへの関わり方や周辺の支援、さらに社会的な制度の在り方を変革していくべきです。

親子間の相互作用の量的、質的な視点から支援できる可能性として、保育園の役割の重要性が浮かび上がって来ます。